

仏女新聞

仏女新聞社 飯島可琳

二〇一三年一月特集号

一月の**京都非公開文化財**
特別公開では二一か所が公開されます。京都古文化保存協会と朝日新聞社の協力で取材しました。みなさまありがとうございます。

今月のおすすめは

- ①放生院 地藏菩薩
 - ②恵心院 十一面観音
 - ③妙法院 普賢菩薩
 - ④廬山寺 鬼大師
- 比べてみて楽しい②
仏声人語

放生院 宇治市

放生院(ほうじょういん)は平等院や宇治茶で知られる宇治にある。宇治川にか

りとした存在感がある。

恵心院では五大明王や大日如来など、多くの仏像を拝観できる。



妙法院 京都市

妙法院は有名な三十三間堂の本坊だ。普賢堂(本堂)本尊の普賢菩薩が乗る象にも目を向けてほしい。



普賢菩薩が乗っている象は体から蓮の花を咲かせ、鼻に

かる宇治橋に近く、地元では橋寺として知られる。



本尊地藏菩薩像は衣に金で繊細な模様を描かれているのが特徴だ。袖の内側にまで細かい模様が描かれている。風が吹いたら、花模様がい散りそう。このように晴れやかな衣をまとった地藏菩薩を私はこれまで見たことがない。

修行僧の姿をしていることが多く、地藏菩薩がなぜ華やかな衣を身につけているのだろう。地藏菩薩の慈悲を求めてさまよっている人々がいるとしたら、この地藏菩薩の輝く衣なら暗闇の中でもすぐ

廬山寺 京都市

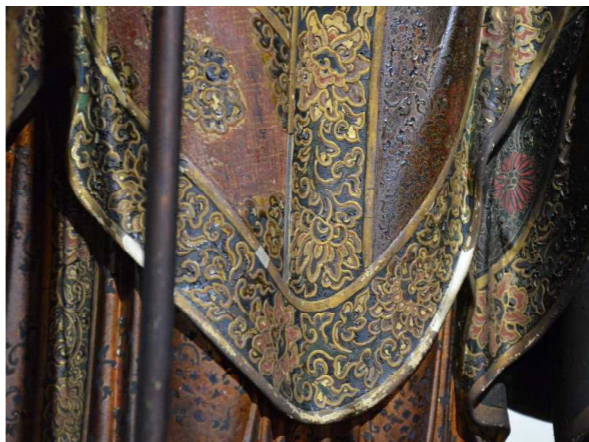
も蓮を持つている。もしかすると、普賢菩薩に蓮の花を捧げようとしているところなのかもしれない。



廬山寺(ろざんじ)を開いたのは比叡山延暦寺の慈恵大師良源である。祈禱中の良源の姿を鏡に映したから、角の生えた鬼の姿が映ったという伝説から「鬼大師」「角大師」と呼ばれている。正月三日に亡くなったので「元三大師(がんだいし)」とも呼ばれる。おみくじの生みの親として有名だ。特別公開では元三大師坐像と御前立鬼大師像

に見つけることができそう。

住職の黒木英雄さんの話によると、地藏菩薩が着ているのは「大衣」で、死者を送るときに僧侶がまとう衣だそう。亡くなった人が寂しくないように華やかな刺繍がほどこされているのだという。



地藏菩薩は右足をわずかに踏み出して、今にも倒れそうなくらいに前傾の姿勢をとっている。それが極楽浄土からの来迎の様子にも

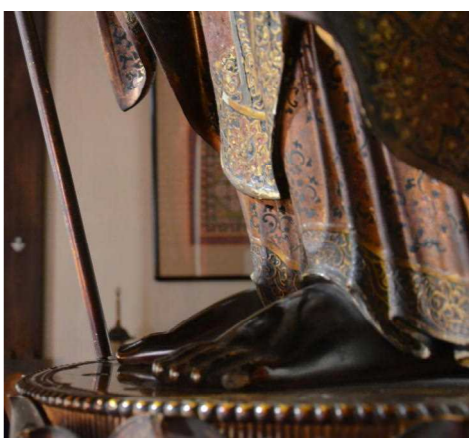
に会える。鬼が笑っているか、怒っているか、どのように見えるかで自分の心の様子が分かるそう。頭に如意宝珠を載せた鬼大師と向き合ってみよう。

比べてみて楽しい②



天台宗の寺院には、元三大師のお札を授与しているところがある。玄関に貼ると魔除けになるらしい。同じように見えて、微妙に顔つきや体つきが違う。自分のイメージに

見える。そして、少し離れた正面に座って顔を見上げるときに一番優しい表情を見せてくれる。「何も怖くはない。私の足元に来なさい。」と。



恵心院 宇治市

恵心院(えしんいん)の本尊は平安時代の一木造りの十一面観音だ。腰から足にかけて流れるような縦の木目がある。海から上がった体に薄い布がまとわりついているようでもある。木目で観音の体の輪郭がはっきりと見えるため、ずっし

合う元三大師のお札を見つけるのも楽しいかもしれない。

仏声人語

私は実際に仏の声を聞いたことはない。仏像が声を出すことはないが、私たちは仏像の表情から何かを感じとっている。

たとえ仏像が口を閉ざしていても、仏と人は心で会話することができるはずだ。遠い存在だと思えば、仏は決して私たちに近づいてはくれないだろう。仏とは自分の心の中に存在するものなのかもしれない。仏と会話するということは、自分の心と会話することなのではないか。自分の心の中にいる仏と会話することができれば、仏が遠い存在だと思っていると、仏が近くにいると感じるときがくるだろう。